

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

今 井 智 子

内 田 信 也

宇 野 彰 準

勝 木 美 子

熊 倉 勇 美

倉 内 紀 子

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

深 浦 順 一

矢 守 麻 奈

今夏は厳しい暑さとゲリラ豪雨が人々を悩ませましたが、8月も末になるとようやく秋が近づく気配がそこはかとなく感じられるようになりました。

今号には第14回日本言語聴覚学会における一般演題の講演抄録が掲載されています。これは発刊以来はじめてのことであり、本誌が年4回発行になることにより今年度から実現したものです。

第14回日本言語聴覚学会は小橋透先生を会長として6月28・29日の2日間、札幌市で開催されました。企画運営は北海道言語聴覚士会の会員の皆様によって行われ、言語聴覚療法の動向を的確にとらえた魅力ある企画とスムーズな会場運営で活気に溢れた学会となりました。企画は、特別講演「脳損傷からみる言葉のしくみ」(大槻美佳先生 北海道大学)のほか教育講演、ワークショップ、セミナーなど非常に多彩で、一般演題については298題の発表がありました。

今回のメインテーマは「言語聴覚療法の可能性」であり、社会情勢や医療福祉環境の変化に伴い拡大しつつある言語聴覚療法の現在の課題を深く掘り下げ、未来の可能性を探ることを趣旨とした学会でした。このテーマに沿って一般演題では各種言語聴覚障害の基礎と臨床における最前線の問題に取り組んだ研究が多数発表されました。本誌に掲載された一般演題の抄録は“現在の言語聴覚障害学および言語聴覚療法の stand point”を示すと同時に、今後の臨床および研究の方向性について考えるうえで貴重な資料になるものと思います。

今号では演題抄録に加え、第4回言語聴覚研究優秀論文賞の受賞者(津田哲也氏)の紹介、発達障害の評価に関する東川健氏の論文、失語症の言語治療に関する瀧澤透氏の論文、嚥下障害に関する佐藤豊展氏の短報が掲載されており、いずれも現在の言語聴覚療法を一步先に進める試みであると思いますのでご一読ください。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第10巻 第3号)2013年9月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2013, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)